

家畜衛生情報

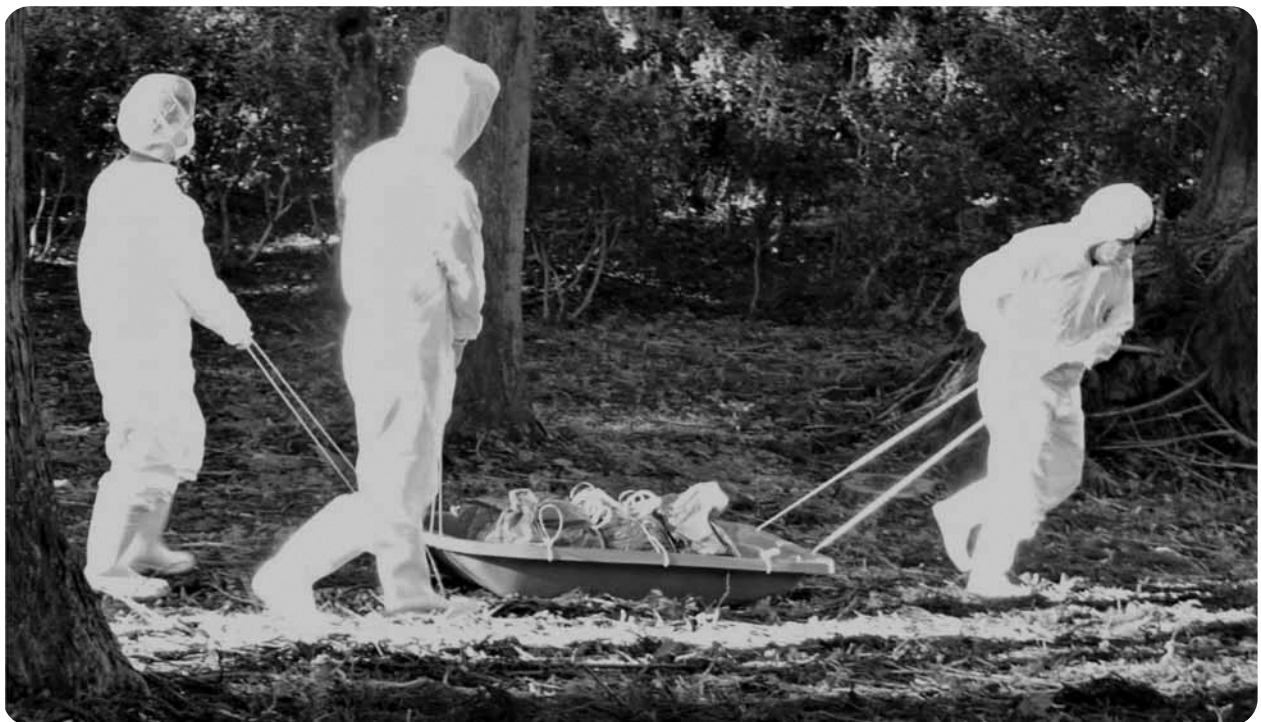
東部地域畜産経営技術推進指導協議会
6 7 8 号
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
2025.11.10
富山県西部家畜保健衛生所

野生いのししにおけるアフリカ豚熱
防疫演習開催される 1
高病原性鳥インフルエンザが
発生しました 2
飼養衛生管理基準の改正 2
手当金の交付が厳格化されます 3
地域防疫演習を開催しました 3
令和 7 年度畜産優良施設等県外視察
研修会の概要 4
牛トレーサビリティ法違反に対する措置 ... 4

第 16 回全日本ホルスタイン共進会
(全共北海道大会) が開催されました ... 5
令和 7 年度富山県共進会(和牛子牛の部)
が開催されました 5
防疫情報 6
前富山県獣医師会長 久保博文氏が
産業経済功労(農林漁業)を受章 6
【とやまグルメ・フードフェス 2025】
今年も大盛況 6
お知らせ 6

野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫演習開催される



野生いのししの死体運搬の様子

10 月 17 日に野生いのししでアフリカ豚熱 (ASF) が発生したことを想定した防疫演習が本県で初めて、富山県林業普及センター及び森林研究所樹木園で開催されました。県市町の関係者をはじめ、森林組合、畜産関係団体や農林水産省北陸農政局など 48 名が出席し、座学と実技演習が行われました。

座学では、日本では発生していない ASF の病態、韓国を含め海外の発生状況、動物検疫所での旅客携帯品や国際郵便物からの ASF ウイルス遺伝子検査陽性事例やウイルスの分離状況などの解説が行われました。また、県内で野生いのししに ASF ウイルスが侵入した場合の対応方針 (案) と野生いのししで ASF が確認された場合の防疫対応の説明を行いました。

実技演習では、山林内における電気柵の設置方法及び簡易電気柵の設置方法や ASF に感染した疑いがある死亡野生いのししの死体処理方法の実技が行われました。山林内の電気柵について多くの関係者から最新のワイヤー電気柵の仕組みや技術的な質疑が活発に行われました。

(西部家保環境課 稲葉課長)

高病原性鳥インフルエンザが発生しました

10月22日に、北海道白老町の45.9万羽飼養する採卵鶏で、今シーズン初めて飼養鶏で高病原性鳥インフルエンザが発生し、10月28日までに全羽殺処分が終了しました。この発生前の10月15日に白老町に隣接している苫小牧市で回収された死亡したオオタカから本病ウイルス（H5N1亜型）が検出されていました。11月に入り2日に、北海道恵庭市の23.6万羽飼養する採卵鶏で、4日に、新潟県胎内市の63万羽飼養する採卵鶏で高病原性インフルエンザが連続して発生しています。

今シーズンの家きんでの発生は、昨シーズンの10月17日の発生に続く、2番目の早さの発生でした。当該農場は令和3年シーズンに発生があった農場であり、発生のリスクが高い農場でした。

家きん飼養者の皆様におかれましては、以下の事項について留意の上、発生予防及びまん延防止に万全を期すようお願いいたします。

- ・家きん飼養農場における異状の早期発見・早期通報の徹底
- ・農場における発生予防対策の徹底
- ・農場周辺の水場・環境における野鳥及び野生動物対策の強化

(西部家保環境課 稲葉課長)

飼養衛生管理基準の改正

家畜伝染病予防法施行規則が一部改正され、令和7年9月29日付けで公布されました。令和6年度シーズンの高病原性鳥インフルエンザ(以下HPAI)の発生を踏まえ、飼養衛生管理基準(全畜種)が改訂されるとともに、新たに非商用家畜の基準が制定されましたので、主な変更点をお伝えいたします。

○家きん：20万羽以上を飼養する大規模所有者に対して、以下の実施を規定

① ウインドウレス鶏舎やその周辺における塵埃対策の実施

昨シーズン、衛生管理が相当徹底されていたと考えられる農場でもHPAIの発生が確認されました。このような事例では人、車両等の移動によりHPAIウイルスが家きん舎に侵入したのではなく、羽毛や糞便に由来する塵埃を介してウイルスが侵入した可能性も疑われました。そこで20万羽以上を飼養する大規模所有者については、塵埃を介したウイルス侵入リスクの低減を図るため、ウインドウレス鶏舎の入り口へのフィルターや不織布の設置、細霧装置を用いた消毒薬の噴霧等を行うよう規定されました。

② 防疫措置の実施体制について対応計画に追記

従来の飼養衛生管理基準の中で、20万羽以上を飼養する大規模所有者は家畜伝染病の発生に備え、家きんの死体の焼埋却の実施に関して対応計画を作成することとされています。今回の施行規則改正で、防疫措置を実施するにあたり必要となる人員や資機材等の準備についても対応計画の中に盛り込むよう規定されました。

③ 農場の分割管理の導入の検討

農場の分割管理とは、あらかじめ農場を複数に分割し、さらに人・物等による交差汚染を取り除いておくことで、HPAIの発生時に発生農場となる範囲を限定する取り組みです。20万羽以上を飼養する大規模所有者は、分割管理の導入を検討するよう明記されました。

○家きん：飼養衛生管理基準の対象家畜にエミューを追加

鶏以外に、あひる、うずら、きじ、だちょう、七面鳥、ほろほろ鳥が飼養衛生管理基準の対象家畜ですが、新たにエミューが追加されました。

○非商用家畜：新たに非商用家畜の飼養衛生管理基準を制定

「生きた家畜および生産物の出荷を行っておらず、かつ少頭羽数のみを飼養する農場の家畜」を、新たに「非商用家畜」と定義し、非商用家畜を対象とした飼養衛生管理基準が設けられました。非商用家畜に該当する場合は従来の飼養衛生管理基準ではなく、非商用家畜の飼養衛生管理基準が適用されることとなります。

「ウインドウレス鶏舎やその周辺における塵埃対策の実施」と「非商用家畜の飼養衛生管理基準の制定」については令和8年10月1日付けで施行予定、それ以外の項目は令和7年10月1日付けで施行されました。家畜飼養者の皆様におかれましては、改正された飼養衛生管理基準の遵守に向けて対応をお願いいたします。

(西部家保防疫課 竹元係長)

手当金の交付が厳格化されます

高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫等が発生した際、家畜伝染病予防法に基づき殺処分された家畜等については、国から手当金及び特別手当金が交付され、原則として、家畜の評価額全額が生産者に交付されます。一方、家畜伝染病の発生又はまん延を防止するために必要な措置を講じなかった生産者に対しては、手当金の一部が交付されず、又は返還することになります。減額率は、衛生情報 674 号でお伝えしたとおり、①飼養衛生管理の状況、②早期通報の実施状況、③まん延防止への協力等の状況を総合的に勘案して決定され、**減額率に上限はありません**。

手当金については、高病原性鳥インフルエンザの令和 6 年シーズンの状況を踏まえ、今年度、減額率の見直しが提示されました。また、昨今の高病原性鳥インフルエンザや豚熱の再発事例では、飼養衛生管理基準の不備が繰り返し見られるとの指摘がなされています。

これらを踏まえて、令和 7 年 10 月 1 日以降、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱等が発生した事例は、下記のとおり、**手当金の交付が厳格化されます**。

生産者のみなさまにおかれましては、内容をご留意いただくとともに、飼養衛生管理状況を定期的に点検・改善を図り、家畜伝染病の発生防止に努めていただきますようお願いいたします。

【手当金の厳格化について】

※令和 7 年 10 月以降の発生事例から、手当金の減額事由として、以下の項目が重視されます。

○飼養衛生管理の状況

- ① 飼養する家畜に異常があるにもかかわらず家畜を出荷
- ② 家畜伝染病予防法に基づき指導・助言等が行われているが、飼養衛生管理基準が不遵守

○早期通報の実施状況

- ・高病原性鳥インフルエンザの特定症状の通報が遅れる

○まん延防止への協力等の状況

- ・高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の再発事例において、飼養衛生管理基準が度重なり不遵守

(農業技術課 田知主任)

地域防疫演習を開催しました

家畜保健衛生所では令和 3 年 1 月の本県での HPAI 発生以降、畜産農場での家畜伝染病発生時の防疫体制と市町村や関係機関との連携・協力体制の確認を目的として地域防疫演習を毎年開催しています。

今年度は、家畜伝染病発生時に最大の動員協力を得る農林振興センターの職員を対象とした演習を 10 月 22 日（高岡）、23 日（砺波）、30 日（新川）、11 月 6 日と 7 日（富山）で開催しました。座学では、豚熱及びアフリカ豚熱の概要や HPAI 発生時の防疫体制を共有し、実技訓練では養鶏場での HPAI 発生を想定した動員時の集合施設集合から農場での殺処分作業、解散までの一連の流れについて確認しました。

万が一の家畜伝染病発生時には被害を最小限とするため、迅速かつ的確な防疫対応が重要となります。今後とも伝染病発生予防対策の強化と強固な防疫体制構築に努めていきたいと思います。



座学（砺波農林振興センター防疫演習）



実技訓練（高岡農林振興センター防疫演習）

(西部家保防疫課 西村係長)

令和7年度畜産優良施設等県外視察研修会の概要

東部地域及び西部地域畜産経営技術指導協会では、畜産優良施設等県外視察研修会を10月21日から22日に開催しました。今年度は、滋賀県の近江牛飼養農場と滋賀県畜産技術振興センターの視察を行い、市職員や獣医師など10名の参加がありました。

<有限会社澤井牧場>

本農場は日本最古の和牛肥育の地である滋賀県竜王町にあり、昭和50年から肉用牛80頭の肥育を開始し、現在、繁殖和牛60頭を含む和牛雌牛の肥育を中心に2,750頭を飼養しています。将来は、3,300頭まで増頭する計画で、美味しい牛肉を消費者に届けるため、丁寧な肥育を行っていました。

美味しい牛肉生産のポイントは、「飲み水」で肉の味を美味しくする重要な要素だそうです。また、肥育前期の餌は自前の配合飼料に地域の未利用資源を加え、稲わらとともにTMRにして乳酸発酵させることで牛の食い込みが良く、群飼牛の増体のムラをなくす工夫をしていました。

このほか、2015年に農場HACCP認証、2018年にJGAP認証、ハラール認証（ムスリム・プロフェッショナルジャパン協会認定）を取得し、畜産物バイヤーや消費者から信頼と安心を得る取り組みをしていました。本農場の牛の3割は海外へ輸出されるなど、全体の8割は相対取引で出荷されており、取引先のニーズに合わせた肥育を行っていました。社長の目利きと肥育技術、徹底した管理体制が畜産物バイヤーの信頼と販路拡大、飼養頭数の増頭につながっていると肌で感じました。また、地域で耕畜連携が取れており、堆肥が田んぼへ、田んぼの稲わらが牛の餌へと、近隣地域との良好な関係が農場の持続的な取り組みとして循環していました。

<滋賀県畜産技術振興センター>

本センターは滋賀県の県有施設であり、昭和7年に「滋賀県種畜場」として設置され、統合や組織改編を経て平成17年から現有組織になっています。本センターでは「ふれあい広場」を設置しており、動物たちとのふれあいを通じて生命の温かさ・大切さを学ぶ場としてめん山羊やポニーなどを飼育展示しています。

本センターの業務の特徴は、畜産試験研究機関である一方で、乳用初妊牛の譲渡、和子牛の哺育・育成を行うキャトル・ステーションの運営、黒毛和種の受精卵の供給、近江しゃもの種卵やひなの供給を行っており、キャトル・ステーションの運営は全国の自治体で他に類を見ない事業です。

キャトル・ステーションは、哺乳子牛を買い取り、4か月齢または7か月齢まで育成し、買い取り元農場へ売り戻す事業を行っています。売り戻し価格は、買い取り価格に飼養経費等を上乗せした価格になっており、農場は哺育や育成を行う手間が省け、繁殖や肥育に集中できるのがメリットです。本事業は、平成30年度から運営され令和6年度まで累計1,779頭の導入実績があります。

黒毛和種の受精卵の供給では、平成31年度からガラス化胚の供給を始め、年間100本の受精卵を供給しています。滋賀県の畜産業を下支えする珍しい事業に積極的に取り組む滋賀県の意気込みを感じました。

（西部家保環境課 稲葉課長）



キャトル・ステーション

牛トレーサビリティ法違反に対する措置

農林水産省東北農政局は、令和7年2月18日～7月16日までの間、牛の管理者であるいわて門崎丑牧場に対し、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法（牛トレーサビリティ法）による立入検査を実施しました。

その結果、(1)耳標の未装着 37頭、(2)耳標の誤装着 1頭、(3)他の牛の耳標を装着した疑いがあり、個体識別を困難にする行為 9頭、(4)譲渡し及び譲受けの未届 220頭、(5)死亡の未届 2頭の行為を確認し、催告及び指導を行いました。

牛の正確な耳標装着・届出は、安全な畜産物の供給に必須の行為ですので、装着漏れ、届出漏れが無いようお願いします。また、片耳や両耳の耳標脱落時には、独立行政法人家畜改良センターのホームページから耳標再発行請求を行ってください。

（西部家保環境課 稲葉課長）

第16回全日本ホルスタイン共進会(全共北海道大会)が開催されました

＜全日本ホルスタイン共進会について＞

令和7年10月25日から26日にかけて北海道勇払郡安平町で第16回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。全日本ホルスタイン共進会(全共)は、「乳牛のオリンピック」に称えられているように、乳牛が、健康で長持ちするために必要な体型の改良度合いを比較展示するために、各都道府県を代表するホルスタイン種を一堂に集めて開催されています。

全共の歴史は、第2次世界大戦後の復興も間もない1951年に、神奈川県平塚市で、第1回大会が開催され、それ以来、概ね5年毎に、過去13回にわたって酪農主要道県で開催されています。前回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、今回は10年ぶり16回目の開催となりました。



「CF ストンフィ グリーン エクспанダ
ダイナモ イカ」の出場の様子

＜出品牛の概要と結果＞

本県からは(株) clover farm(高岡市)がホルスタイン種(雌)経産牛の部の「第12部(36カ月以上42カ月未満)」と「第14部(4歳以上5歳未満)」に1頭ずつ出品しました。

結果は下記の表のとおりです

出品者	部門	出品No	生年月日	名号	順位
(株) clover farm	第12部	1227	R4. 4. 9	CFマキシム ボブ マヌーバ ホエルコ	2等
(株) clover farm	第14部	1407	R3. 7. 9	CFストンフィ グリーン エクспанダ ダイナモ イカ	2等

＜全共を終えて＞

乳牛の共進会では、出品牛を会場まで輸送し、共進会が終わると再び牧場まで輸送します。輸送中含め、共進会期間中は昼夜を問わず牛の世話をを行う必要があるため、出品には大きな労力を伴います。今回共進会に参加された(株) clover farmさん大変お疲れ様でした。

また、本共進会は日頃の改良や飼養技術の成果を競う場であり、共進会出場は全国における本県の酪農の立ち位置や乳牛の改良における課題を知る良い機会になったと感じます。生産者や関係機関の皆様には、引き続き富山県の酪農振興にご協力いただきますようお願いいたします。

(農業技術課 村田技師)

令和7年度富山県共進会(和牛子牛の部)が開催されました

10月23日に、金沢市の北陸三県家畜市場で、富山県共進会(和牛子牛の部)が開催されました。雌12頭、去勢28頭、合計40頭の和子牛が出品されました。審査の結果、優等賞一席に南砺市の上野幸生さんが出品した「ひふみよ25」(雌)が受賞されました。おめでとうございます。

また、北陸三県の去勢牛96頭の中から最優秀賞(北陸農政局長賞)に富山市の長谷佳典さんが出品した「北美津次郎」が選ばれました。

同日開催されました令和7年度第4回の北陸三県和牛子牛市場の成績は、全体で去勢96頭、雌58頭の計154頭の取引が成立、富山県からの出品牛は去勢28頭、雌12頭の計40頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比プラス11頭となりました。

全体の平均価格は、去勢で602千円(8月市場552千円)、雌で567千円(同542千円)、全体では589千円(同548千円)でした。また、最高価格は去勢で775千円、雌が719千円でした。

今回の開催は令和7年12月18日(木)になります。

(西部家保環境課 稲葉課長)

褒賞	性別	氏名
優等賞一席	雌	上野 幸生
優等賞二席	去勢	長谷 佳典
一等賞	去勢	(株) アデア牧場
		稲葉 浩規
		(株) カシワファーム



優等賞一席の「ひふみよ25」

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生 高病原性鳥インフルエンザ

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
1	10月22日	北海道白老町	採卵鶏	45.9万羽	H5N1亜型
2	11月2日	北海道恵庭市	採卵鶏	23.6万羽	H5
3	11月4日	新潟県胎内市	採卵鶏	63万羽	H5

県内の主な家畜伝染性疾病等の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛バツレラ症	牛	9月18日	1	1	
牛トウルエペレラ・ピオゲネス感染症	牛	9月28日	1	1	
破傷風	牛	10月6日	1	1	届出伝染病
めん羊の消化管内寄生症	めん羊	9月20日	1	1	
鶏大腸菌症	鶏	9月30日	1	4	

令和7年（2025年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

事例	回収日	場所	種名
1～6 (6事例)	10月15日 ～ 10月27日	北海道：苫小牧市、根室市、浦幌町、 千歳市 宮崎県：日南市、延岡市	オオタカ、ヒドリガモ、ハシブトガラス、タンチョウ、オオハクチョウ

県内における野性のしし豚熱 PCR 陽性事例（令和7年10月2日～10月29日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	10月20日	南砺市湯谷地内	成獣	雄

前富山県獣医師会長 久保博文氏が産業経済功労（農林漁業）を受章

10月25日、富山市の富山テクノホールにおいて、令和7年度県産業経済部門（農林漁業分野）功労表彰式が執り行われ、本年6月まで県獣医師会会長を務めた久保博文氏が佐藤一絵副知事より表彰状を授与されました。「平成27年以来10年間にわたり、獣医師会の要職に在って、県民の獣医師に対する理解促進や家畜伝染病への対応に取り組むなど、本県畜産業の振興に寄与している」というご功績を讃えての表彰でした。表彰式の最後には、久保氏が受章者を代表して、後進を導いていく決意を語られました。この度は誠にありがとうございました。



（農業技術課 神吉副主幹）

【とやまグルメ・フードフェス 2025】今年も大盛況

2025年10月25日～26日に富山市の富山産業展示館（テクノホール）にて、「とやまグルメ・フードフェス 2025」が開催されました。オープン当初から連日大盛況となり、さまざまな富山の食の魅力を堪能し、五感で楽しむ良い機会となりました。

会場では県産の酒粕を給与して育てた富山県産和牛「とやま和牛 酒粕育ち」をはじめとして、「立山放牧牛」を味わえる料理に多くの方が舌鼓を打っていました。その他にも富山県産の乳製品、豚肉、卵、蜂蜜などの畜産物を生産者や関係者が販売し、その魅力について来場者にPRされていました。

これからも多くの方が富山県の畜産物に関心を持っていただき、その美味しさに出会える機会が増えることを期待しております。

（西部家保防疫課 増永係長）



発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140
編集者 稲葉 真（富山県西部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

